

私たちは、震災というリスクを理解し意識して生活しなければなりません。また、行政だけに頼らない地域の再生力を高め、未曾有の大震災の起こったこの時に、議員であることの責任と使命を果たさなければと決意しました。

3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらしました。この震災によって我が国の震災対策の抜本的な見直しが必要となりました。また、東京直下型地震も現実的なものとなり、東京及び私たちの住む杉並区でも大震災を教訓に様々な防災対策が進められています。



2011年3月11日14時46分18秒

東日本大震災 発生

三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録。最大遡上高40.5mにもものぼる大津波が発生し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしたほか、東北各県や関東地方などに大きな爪跡を残しました。

【全国の被害状況】

死者 1万5千836人
 行方不明者 3千650人（11月10日現在）
 建築物の全壊・半壊 18万戸以上
 ピーク時の避難者 40万人以上
 車両被害 41万台
 被害総額 16兆525兆円 原発による被害等は含まれず

【杉並区の状況】（震度5強）

交通網がストップし、多くの帰宅困難者が発生
 一般電話回線、携帯電話回線が使用不能状態
 メール通信も一時不能
 人的被害 負傷者7名
 物的被害 塀倒壊63件、瓦・外壁落下21件、道路等損傷14件、建物の全半壊及び一部損傷700件以上



○仙台市から南下し南相馬市へと被災地を視察しました

【震災当日の活動】

議会の最終日で区役所3階にいた。

大きな揺れに恐怖を覚えながら「関東大震災が来たか」と思った。

しばらくしてテレビの報道で東北地方が震源地である事を知った。その後、徐々に被害の状況が明らかになり始め、空からのライブ映像で津波が街をのみ込む様子が映し出されると、控え室の皆が声を失った。

妻の実家に電話を入れたが繋がらない、ひよつとしたらやられたかもしれないと思った。家族全員にメールを送り、議会が閉会すると同時に街へ飛び出した。

東京は被害が少なかったとはいえ、あちこちで屋根瓦が落ちたり、塀が崩れたりしていた。

まず一人暮らしの高齢者の方の様子を見に回ったが、幸いにも皆、無事だった。

自分のエリアの震災救援所となっている小中学校を回った。自宅にいたのが不安だと言う方が何人か避難していた。

夜になると、多くの帰宅困難者が青梅街道の歩道を埋め尽くしていた。

情報収集のため、区役所6階の防災センターに設置された災害対策本部に詰め、Twitterで杉並区の震災情報を発信し続けた。現代の通信インフラの脆弱さを思い知らされた。

深夜になって、帰宅困難者の受け入れを行うことになった学校の手伝いに向かった。

渡辺ふじおの取り組み

○震災直後の提言で実現

- ・被災地からの避難者への相談窓口の設置
- ・区内に被災者用の住宅確保（50戸）
- ・ツイッターの杉並区公式アカウントを取得し、震災情報を発信

区議会公明党の取り組み

○区へ震災対策の緊急要望書提出し実現

- ・区内小中学校、幼稚園、保育園、区立公園等（500ヶ所）での放射線量測定
- ・震災救援所（小中学校体育館）に非常時用テレビアンテナを設置
- ・震災救援所（小中学校体育館）にバルーン投光器、インバーター発電機やスタンドパイプを設置
- ・発災時の機動的調査や救援活動にバイク隊を編成
- ・高齢者を熱中症から守る緊急対策事業の実施
- ・節電対策商店街照明のLED化促進

○杉並区の災害時相互援助協定を締結した被災地福島県南相馬市への支援

震災直後より、現地へ支援物資を届けるとともに、被災者を保養施設に受け入れました。また、職員を派遣し復旧、復興の支援を行っています。

また、区内団体に呼びかけ義援金を募り現地へ届けました。

6月末にチャリティーコンサートを行った2つの団体から支援先を探してほしいとの依頼を受け、縁あって南相馬市で子育てを支援しているNPO法人「はらまちクラブ」へ義援金を届けさせて頂きました。



NPO はらまちクラブ 江本節子代表と

区民相談はお気軽に！

Mail: info@w240.net

TEL 03-3312-2111/FAX 03-3312-2710

杉並区役所内公明党控室

発行：杉並区議会議員 渡辺ふじお